

(3) 温室・ビニールハウスでのくん煙剤・常温煙霧剤の使用法

ア 一般的な注意

- ハウスの戸や窓を密閉し、室の容積に応じて薬剤の使用量を定める。事前に必ず説明書を読む。
- 一般に風の強い夕刻に行い、翌朝開放する。風の強い日、室温が 30℃以上の時や、もやのかかった場合は避ける。また、幼苗期や定植直後は薬害が出やすいので避ける。
- ハウス内が乾燥している場合、薬害がでやすいので、かん水後に行う。
- くん煙中はハウス内に入らない。入室が必要な場合は、必ず専用の防毒マスクを使用する。
かぶれやすい体質の人は絶対に入らない。
- 作業の都合でハウスを開けたり天窓を開放する必要のある場合は、くん煙後最低 2 時間経ってからとする。

イ 自然くん煙

(ア) 使用法

室内容積、面積に応じた薬剤を均等に通路に配置する。くん煙剤のまわりの可燃物をあらかじめ取り除き、マッチで点火する(薬剤は手に持たない)。夕方くん煙して密閉し、翌朝換気する。葉やけを生ずることがあるので、作物の上方につるすといふ。

(イ) 各自然くん煙剤の適用作物及び適用病害虫

(a) 殺菌剤

薬剤名の後の()はFRACによる作用機構分類コードを示す。

薬剤名	作物名	対象病害虫	備考	
硫黄粒剤 (M2)	かぼちゃ	うどんこ病	専用の電気加熱式くん煙器でくん煙する PO系フィルムに影響を与えるので注意する	
	きゅうり			
	すいか			
	トマト			
	メロン			
	ピーマン・とうがらし類			
	なす			
	いちご	白さび病		
スミレックスくん煙 顆粒 (2)	きく	うどんこ病		
	ばら	菌核病、灰色かび病		
	きゅうり	菌核病		
	すいか	灰色かび病		
	トマト			
	ピーマン			
	ししとう			
	なす			
ダコニールジェット (M5)	いちご	うどんこ病、べと病		
	きゅうり			葉かび病
	トマト			黒枯病
トリフミンジェット (3)	なす	うどんこ病		
	きゅうり			
	すいか			
	メロン			
	ズッキーニ			
	トマト・ミニトマト	葉かび病		
	ピーマン	うどんこ病		
	なす	うどんこ病、すすかび病		
	ししとう	うどんこ病		
	さやえんどう			
	いちご			
	きく	白さび病		
ばら	うどんこ病			
パンチョTFジェッ ト (U6+3)	トマト	うどんこ病		
	きゅうり			
	メロン			
	いちご			
	花き類・観葉植物			
フルピカくん煙剤 (9)	きゅうり	うどんこ病、灰色かび病		
	いちご			
モレスタン水和剤 (M10)	きゅうり	うどんこ病		
	ピーマン			
	ばら			

薬剤名	作物名	対象病害虫	備考
ロブラールくん煙剤 (2)	きゅうり	菌核病、灰色かび病	
	すいか	菌核病	
	メロン	菌核病、つる枯病	
	トマト・ミニトマト	菌核病、灰色かび病	
	ピーマン		
	なす		
	とうがらし類		
	いちご	灰色かび病	

(b) 殺虫剤

系統名の後の()はIRACによる作用機構分類コード(サブグループ)を示す。

薬剤名	作物名	対象病害虫	注意事項
合成ピレスロイド系 (3A)			
テルスター ジェット	いちご	ハダニ類	
	きゅうり		
	なす	ハダニ類、ハスモンヨトウ	
	メロン	アブラムシ類、ハダニ類	
	すいか	ハダニ類	
	花き類・観葉植物		
マブリック ジェット	きゅうり	アブラムシ類、ハダニ類	定植直後又は幼苗・ 軟弱徒長苗などには、 薬害を生ずるおそれ があるので使用を さける
	すいか		
	メロン	ハダニ類	
	なす	アブラムシ類、ハダニ類	
	いちご		
	カーネーション		
	ばら		
	花き類・観葉植物 (カーネーション、 ばらを除く)	アブラムシ類	
	みかん	ミカンハダニ	
ロディー くん煙顆粒	すいか	ハダニ類	
	メロン		
	なす		
	いちご		
	かんきつ	ミカンハダニ	
	びわ(有袋)	アブラムシ類、ミカンハダニ	
	きく	ハダニ類	
	ばら		
ネオニコチノイド系 (4A)			
モスピラン ジェット	きゅうり	アブラムシ類、コナジラミ類、 ミナミキイロアザミウマ	定植直後又は幼苗・軟 弱徒長苗などには、薬 害を生ずるおそれ があるので使用をさ ける
	すいか	アブラムシ類、ミナミキイロアザ ミウマ	
	メロン	アブラムシ類、アザミウマ類	
	トマト・ミニトマ ト	コナジラミ類、ミカンキイロア ザミウマ	
	ピーマン	アブラムシ類	
	ズッキーニ ズッキーニ (花)		
	アスパラガス	アザミウマ類	
	なす	アブラムシ類、ミナミキイロア ザミウマ	
	いちご	アブラムシ類、アザミウマ類	
	みょうが(花穂)	アブラムシ類	花穂の発生期には花 穂をマルチフィルム 被覆した状態で使用 する
	花き類・観葉植物 (トルコギキョウを 除く)		
	トルコギキョウ	アブラムシ類、ミカンキイロア ザミウマ	

ウ 常温煙霧

薬剤を微粒子で噴出させ送風機で施設内に送り込む方法である。

(ア) 散布法

- a 散布はできるだけ夕刻に行い、翌朝までそのままにしておく。
- b ノズルの設置場所は、施設の形状に合わせて対流がスムーズにいくような位置とする。
 - (a) 長い施設の場合は、両端にノズルを設置する。
 - (b) 間口の狭い施設の場合は、短辺の中心より左右どちらかにすると到達距離が伸びる。
 - (c) 送風設備のある施設では、その風向と同じ方向に設置し、併用するのもよい。
- c ノズルは作物より上部の空間に設置し、噴霧方向はやや上向きとする。上部空間が少ない場合は畦間に設置する。

なお、噴霧が直接作物に当たったり落下すると汚れることがあるので、上部空間の場合は作物上部に、畦間の場合は左右株際に、ビニールシートを噴霧方向に5mくらい張り、保護する。

(イ) 各常温煙霧剤の適用作物及び適用病害虫

薬剤名の後の()はIRACまたはFRACによる作用機構分類コード(サブグループ)を示す。

薬剤名	作物名	対象病害虫
アドマイヤー水和剤 (4A)	きゅうり	アブラムシ類
	なす	
スミレックス水和剤 (2)	きゅうり	灰色かび病
	なす	
ダコニール1000 (M5)	トマト	うどんこ病
トップジンM水和剤 (1)	トマト	灰色かび病
フルピカフロアブル (9)	きゅうり	うどんこ病
	なす	
	いちご	
ベンレート水和剤 (1)	きゅうり	灰色かび病
	トマト	
ボトキラー水和剤 (BM2)	野菜類	灰色かび病
モレスタン水和剤 (M10)	きゅうり	うどんこ病
	メロン	
ロブラール水和剤 (2)	きゅうり	灰色かび病
	トマト	
	ミニトマト	

(ウ) 注意事項

- a ハウス内にもやが立つような多湿の場合は、拡散効果が劣るので避ける。
- b 作業中及び密閉中は室内に入らない。やむを得ず入る場合は、防護マスク、長袖作業衣、手袋などを着用する。